



系統立てて旅行業を勉強したい気持ちと、23年目で壁に当たり、突破口を見つけない気持ちの直接的な動機。

僕も若い時の一人旅が原点にはある

入ったんです。ただウチのスタッフには、最近はずっとバックパッカー出身というかね、自分一人でも頼らず旅した人間をあえて採るようにしています。そういうスタッフは、自分の思うようにやっていくのが旅の基本という考えを持っていて、同時に旅行会社がオ

ード、同時に旅行会社がオ

松永 結果として余剰人員を抱えて、人が一人出ても回るようにしておかないといけないですね。

2期生たちの放課後対談

テーマ1 体験的人材育成論

小田急トラベルサービス監査役・近藤節夫氏による講義は「体験的人材育成論」。近藤氏は自らの体験を踏まえ、旅行業界人は、海外へ一人で武者修行の旅に出るべきであるという、「臨場体験教育」の重要性を説いた。特に、政治・社会情勢が流動的な国を選び、往復の航空便だけを予約、その他の移動・宿泊等はすべて現地手配する旅。この臨場体験が、確たる自信につながり、骨太な営業・企画マンが育成されるという。

松永 そういう体験をお持ちなら、今日の近藤先生の話もストレートに入ってくるでしょうね。僕は学生時代の一人旅の経験はなくて、何百人か船で行くという、グループのオ

松永 でも、旅行会社がお客さんより現地に詳しくなければ使ってもらえない、という時代の要請がシビアに出てきたから、四の五の言っている暇はないんじゃないかと思うんです。ウチなんか地域的に絞っちゃってるから、その地域において「このホテルはどうですか？」と聞かれた時に分

水島 ウチは業務渡航中心なので、現地に置くということはないですが、問題は誰かが研修や旅行に出ているからそのことについては分からない、手配できないというわけにはいかない。いつでもスタンバイ状態にないといけないので、そういう意味で厳しいですね。



会社設立から10年が過ぎ、今後の方向性に迷いを感じていた時に、第一期卒業生からの話を聞き入塾。

旅の楽しみを体験した人間は強い

松永 僕の場合、今日の話の中で一番印象に残っているのは、「習うより慣れる。実戦に強くあれ」という、海外一人旅を通じて臨場体験教育についてです。自分のことを振り返っても、やはり血となり肉となった体験は全部現地で得ている。

松永 そうですね。そういう

人たちは旅行の基本はエアオンだと言いますよね。僕も旅の醍醐味はそこがスタートじゃないかと今でも思っています。ただ会社として一概に、その方向で進めていくわけにはいかないけど。

快適な旅では身につかない

人的余裕がないのが壁

松永 でも現実には、それを社員教育に生かしていくということになるのかなか難しい。うちは一応海外研修制度をとって、有給休暇とは別に海外に年に一回は研修に出ようということ、半額は会社負担にしているんですが、人的余裕がないのが壁になっています。必ず受けの現場に誰か一人ローテーションで送るといってもやろうと計画しているのですが、現状として「できていない」と胸を張れることは少ないですね。

水島 ウチは業務渡航中心なので、現地に置くということはないですが、問題は誰かが研修や旅行に出ているからそのことについては分からない、手配できないというわけにはいかない。いつでもスタンバイ状態にないといけないので、そういう意味で厳しいですね。